

会派視察・研修報告書

会派名 公明党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和 4 年 1 月 3 1 日 (月) 10 時～17 時
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	各自でオンライン研修 主催：地方議会総合研究所
3 参 加 者	寺島 芳枝 渡部 昇 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	自治体の SDGs 活用戦略 ～変化し不確かな状況で持続可能な地域を実現するために～ 講師：広石拓司氏（株式会社エンパブリック代表）
5 主な内容	基礎編：なぜ自治体にとって SDGs は大切なのか？ 応用編：SDGs を地域で活用するための考え方・進め方
6 所感、提言事項、課題等	<p>【議員氏名】寺島芳枝</p> <p><基礎編></p> <p>SDGs とは、価値観の変化、持続可能な誰一人取り残さない世界へ。これまでと同じ暮らし方、仕事をしていては持続することはできない。強い意志が必要である。が今までの課題や息詰まりを、SDGs の価値観が変えるチャンス、ヒントになる事を体感することができた。例；低酸素から脱炭素へ—大切なのは問いが変わっている事。17 の目標は共通認識となり、自分達の国地域の課題を考えるヒントとなる、個別に考えない繋っている事を学んだ。</p> <p><応用編></p> <p>どんな 2030 にするか（ミライシナリオをツールに）多様な参加、交流の機会を広げる中で具体的な目標、アクションを掲示し地域に広げる。単独（行政・企業・地域）では変化は起こせない。SDGs は立場を超えて分かち合える問い、一緒に悩む！が見えていなかった事が見え、無理・諦めを越えるアイデアを生む。金沢や日野市、北九州市（魚町銀天街）など事例を学ぶのも面白い。自治体の課題や、地域の課題を SDGs の視点で対話のツールとする事で、若者の参加のきっかけにしていけるのではないかな。</p>

	<p>【議員氏名】渡部 昇</p> <p><基礎編></p> <p>SDGsは世界と地域が、重なっている事を示している。事業や地域コミュニティをSDGsの目で見ると、地域の中から今なにが問題なのか、課題はなにかを割り出し、持続可能な地域に求められる発想の転換をし、将来の地域は何をすれば良いのかを判断することが重要であると思った。</p> <p><応用編></p> <p>SDGsは立場を超えて分かちあえる事で、地域のゴール実現に向けて分かち合う、これまでのままの地域では、持続できないのでは？どんな動きを始めたい？誰も取り残されない地域をつくるには？地域の多様な主体、すべてに役割がある。行政、企業、地域、それぞれの人の強みと課題を持ち寄ることで、次世代の地域が出来る、単独では変化は起こせない。</p>
<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>【議員氏名】片山竜美</p> <p><基礎編></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030年に向けて、価値観が変わり、地域には新しい仕事が増え、必要となる。この3年間でこの動きに乗り、新しい仕事を生み出せる地域は持続可能に、それができない地域は持続できない。したがって、SDGs、脱炭素を地方創生の推進力にするべきである。 ・SDGsを地域で生かすためにまずは、「SDGsのレンズ」で事業や地域を見直すことを学んだ。ただ単にやみくもに取り組むのではなく、地域の課題や実情に応じて、将来どうなりたいのかという明確なビジョンをSDGsの観点で見つめなおしていくことが重要であることが分かった。 ・問題を起こす蛇口は何か？閉じる蛇口を考える。そして、問題の現状、目指す姿、一人一人ができることを明確にし、住民の参画を進め、しっかりとしたアイデアをもって、思いをもつ住民とともに進めることが重要である。 <p><応用編></p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢市や日野市の具体的事例を通して、行政だけでなく、企業や地域住民それぞれの強みと課題を持ち寄ってこそ、次の地域ができる。その視点としてSDGsがとても分かりやすく、誰もが共感して進めるテーマである。 ・SDGsの推進には日常的な対話の重要性を感じた。少人数の対話からネットワークが広がり、人と人をつなぐことになる。そう思うと、SDGsの視点で対話集会をするのも面白いのではないかと感じた。

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。